

様式(7)

報告番号	甲保 第 58号 乙保
論文内容要旨	
氏名	多田 美由貴
題目	Development of Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children (乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度の開発)
<p>近年、核家族化や人々のつながりの希薄化により、家庭や地域における相互扶助機能が低下している。それらを補完するために ICT (Information and Communication Technology) を利用したオンラインコミュニティによるつながりが広がってきており、いつでも最新の育児情報を得られるようになるなど、育児を取り巻く環境は変化している。</p> <p>そこで、健康や医療に関する情報を入手、理解、評価、活用してよりよい意思決定ができる力であるヘルスリテラシーが健康を決める力として注目されている。本研究では、子どもとの愛情のきずなを重視した育児に焦点をあてた、育児に関するヘルスリテラシー (以下、育児リテラシー) に着目した。</p> <p>これまで育児リテラシーに関する研究は、米国が中心で対象者も肥満や疾患をもつ子の母親や社会的に制限のある母親など限定的であり、評価指標も育児リテラシーに特化したものではなかった。日本においても同様であった。今後ますます情報化が進展し、新型コロナウイルス感染症をはじめ新たな感染症の出現により、オンライン支援が選択肢の1つとなってくる中で、母親の育児リテラシーを考慮した支援は必要不可欠である。乳幼児期の健康は生涯の健康基盤にもなることから、母親の育児リテラシーを適切に把握し、それを高める支援方法を検討するための評価指標の開発が必要であると考えた。</p> <p>本研究の目的は、乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度 (CLMIC) を開発し、その信頼性と妥当性を検証することであった。</p> <p>予備調査を経て提案された28項目からなる育児リテラシー測定尺度を用い、無記名自記式質問紙調査を実施した。対象者は、市が実施する乳幼児健診等にきた母親であった。211人を分析対象者とした。信頼性の検証にはCronbach's <math>\alpha</math>係数の算出を用いた。妥当性の検証には、構成概念妥当性として探索的因子分析を行った。</p> <p>育児リテラシー測定尺度28項目について因子分析を行った結果、4因子24項目を採択した。すべての因子においてCronbach's <math>\alpha</math>係数は.80以上であった。また、CLMICとCommunicative and Critical Health Literacy (CCHL)、性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度、日本語版Short-Form-8-Item Health Survey (SF-8) に有意な正の相関、CLMICと日本語版Parenting Stress Index Short Form (PSI-SF) の間に、有意な負の相関が認められた。</p> <p>開発した乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度の信頼性と妥当性が確認できた。日本人の母親に適した育児ならではの視点を大切に、育児ストレスや子どもの安心安全を守る健康行動に貢献できる有用性の高い尺度であることが示された。</p>	